

## 会 議 録

会 議 名	第 3 回宇都宮市地域新エネルギービジョン専門委員会	
開催日時	平成 1 4 年 1 月 2 4 日 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 3 0 分	
開催場所	宇都宮市役所 議会棟 3 階 第一委員会室	
出席者	<p>【委 員】秋山委員長，永尾副委員長，小幡委員，吉原委員，鷹箸委員， 葭葉委員，会沢委員（代理出席 野沢課長補佐）</p> <p>【オブザーバー】鶴田氏</p> <p>【事務局】檀淵宇都宮市環境部長，ほか 1 0 名</p>	
公開・非公開	公開	
傍聴者	1 人	
議 題	<p>1 新エネルギーの導入適性と導入効果について</p> <p>2 新エネルギー導入の基本的方向について</p>	
会議結果	議題 1	・今回の意見を最終案に取り入れることとする。
	議題 2	・今回の意見を最終案に取り入れることとする。

発言要旨【議題 1 関係】	
吉原委員	・「新エネルギーの特徴」で蓄電池と組み合わせた太陽光発電とあるが，一般への普及としては適切な表現ではないのではないか。
事務局	・これは，災害対応にライフスポット等への活用の利点としてあげているものであり，適切な表現だと考えている。
吉原委員	・天然ガスコジェネ，燃料電池は防災時に役に立たないのではないか。燃料があれば，役に立つ。L P G との共有タイプも考えられる。
鷹箸委員	・ガスの供給方式には，高圧と中圧があり，中圧ガスについては，災害時にも供給が途絶え難いので防災時に役立つ。
吉原委員	・表 1 の表現に適切でない部分がある。
事務局	・工夫する。
永尾委員	・表 1 のコストについては，イニシャルコストのみかどうか分かるようにした方がよい。
事務局	・例えば，発電単価と対応するタイプの電気料金，燃料との比較を行っている。そのことを明記するようにする。
野沢課長補佐	・表 1 は，1 枚にまとめること自体が無理なのかもしれない。
野沢課長補佐	・1 4 ページの二酸化炭素削減効果の表現は再検討した方がよい。
事務局	・県のビジョンに近いような表現で検討する。

発言要旨【議題1 関係】	
永尾委員	・利用可能量の単位は適切でないものがあるようだ。
事務局	・新エネルギー部会報告書の目標値の設備容量に原則として合わせているが、算出の方法で合わせられないものがある。工夫をする。(単位の欄は設備容量とする。)
吉原委員	・p5の「エネルギー消費における特徴」の にCO2の発生のないを入れてはどうか。
秋山委員長	・この意味は、市の外部にエネルギーを多く依存しているという意味であるので、必要のないことかもしれない。原発は建設段階でのCO2の発生もあるかもしれないし、 は削除することにする。
永尾委員	・表2,表3の風力の表現で、風力発電は全く駄目であるような表現となっている。これから市内で風力をやろうとしている人の気を削ぐことにもなるので削除できないか。
事務局	・削除しても問題はないと思う。
	・p12とp13で天然ガス利用がかなり断定的に書かれている。表現を代えてはどうか。
鷹箸委員	・アクションプランを考える上ではこのくらい書いた方がよい。
委員長	・私と事務局で表現を再検討してみよう。

発言要旨【議題2 関係】	
吉原委員	・現在新エネルギー機器とは認められていないが省エネ効果のあるものがある。これらも取り上げられないか。
秋山委員長	・本件はあくまで新エネビジョンなので、省エネは大事であるが、大きくは取扱わない。
事務局	・今後、身近な省エネ対策は触れることになっている。
永尾委員	・モデルスタディの位置づけは？
事務局	・新エネルギーを導入した場合の具体的なイメージを作るためのものである。
永尾委員	・重要な方向性が出ているので、モデルスタディの位置づけや技術の選定理由などを明確にしたほうがよい。
吉原委員	・新エネルギーの技術進歩は早いので、今回の資料だけで決定をしないほうがよいと思う。
永尾委員	・そのとおりで、今後のことも十分視野に入れて、技術評価はあくまで現段階のものであることを明示すべきである。
委員長	・明示することとする。

発言要旨【議題2 関係】	
野沢課長補佐	・「4．導入計画」の中で点線が切れるものは、それ以降どうなるのか。実施しないと受け取れる。
事務局	・検討の期間を点線に入れてあるので事業が終わるわけではない。それ以後は、時期を明確に入れるのは難しいので、導入目標時期としていれる。